

50.240SSB モービルグループ、30周年おめでとうございます。

1981年1月に初アイボールドミーティングが調布飛行場であったのが、30年前の事なんですね。

当時、私の無線運用はペーパーライセンス状態で、年に数回 50Mhz の AM と 144Mhz SSB で電波を出す程度でした。

そして、1990年に入りやっと無線運用が出来る状況になりました。

RIGを新しくする為、CQ誌を購入して最新情報を収集しました、開局当時から50Mhzが好きだったので、50Mhzが出られる事が第一条件でした。1990年代には50Mhzの専用RIGがあり、TR9300やFT-690MK2などがCQ誌に掲載されていました、またHF+50MのTS-680やIC-726がありました。購入の前に実機に触れて見たくて、秋葉原へ出かけていろ色と事前調査をしました。

既に周波数表示はデジタル表示になっていて、真空管世代でアナログダイヤルに慣れていた私には、なんとなく違和感がありました。

また、50MhzモノバンドのRIGにファイナル調整が無いのは理解できましたが、HF+50のRIGに、バンド切替をした時にファイナル調整が無いのは理解出来ずに、店員に「ファイナル調整はどの釦でやるのですか」と質問したところ、「今のRIGは全て自動なので有りません」との回答でした。

色々と、見て周り最終的には、HFも50MもQRVしたかったのでIC-726Sの10W仕様に決めました。

50Mhzの4エレ八木とローテーターはあったのですが、4エレ八木は3.5エレになっていたし、回転しないローテータなのでこれも新しくしなければなりませんでした。

夏のボーナスが入ったあとに、車で行ける所沢のハムショップに行きましたが、残念ながら、10WのIC-726Sは在庫が有りませんでした、100WのIC-726はありましたが、100W機にすると自作のDC電源がMAX5Aなので、DC電源も必要になります、また10WのTS-680Vもありましたが予算オーバーになるので、IC-726Sを予約して、4エレHB9CVとローテータを持ち帰り、IC-726S

は翌週に入手しました。

1990年7月21日、15年振りくらいに無線を本格的復活しました。夏の日曜日と云う事もあり、バンドは賑やかで、聞こえる局を次々にコールしていきました。

Eスポも開け、6エリア8エリアともコンタクト出来て、少年時代に経験したAM時代とは違い50MSBの楽しさを実感していました。

そんなある日の夜に、静かなバンドの中で、数局がラウンドQSOをしているのが聞こえてきました、話の内容は良く分かりませんでした。仲間同士が楽しくQSOしている様子でした。

それが、50.240のロールコールだったのかも知れません。

そして或る日に、車で杉並まで仕事に行く事があり、折角長時間一人モバイルなのだと思いIC-726Sを車に積んで、アンテナはRIGに直結した144Mhzの5/8λ室内ANTで、ワッチ走行しました。

50mhz帯のモバイルは、51MのFMとっていましたから、メインチャンネルを聞いていれば何か聞こえると思い、メインを聞きながら、走りましたが何も聞こえませんでした。

仕事が終わって、夕方6時頃SSBモードに切り替えてダイヤルを回しながら、走行していると、フルスケール状態で信号が入ってきました。近くでモバイル局が出ていたのです、すぐにコールしてQSO成立しました、そして、この時に50.240SSBモバイルグループの事を知りました。

夜間に50.240を聞いていると、何時も出ている強い局がありました。

故JH1AQZ局が所沢から出ていました、当時私は東大和市だったので多摩湖を挟んでローカル局でした、アンテナの話や古いAM時代のリグの話などをしていく内に、私も50.240でSSBモバイルを開始する事になりました。

アマ無線は個人的な趣味ですが、同じ趣味の仲間の人達によって世界が広がってきます。

無線を始めた高校生の頃は、部活動や地域クラブに属して、無線技術や無線運用の幅が広がっていきました。

同時にクラブ活動の煩わしも経験しました。地域クラブの活動では、年間の行事消化に追われて、自分でアマ無線を楽しむはずが、なにか無線の行事消化が生活の制約の様な関係になってしまいアマ無線が詰まらないもになった事もあり、アマ無線のクラブや同好会への参加は敬遠していました。

町田市から東大和市に引っ越して、細々とアマ無線をしていた頃に、東大和クラブから入会の誘いを頂きましたが、町田市時代の地域クラブの事が脳裏にあり、入会はしませんでした。

50. 240SSB モービルグループはクラブ組織では無く、出入り自由と聞きローカルQSOの延長のつもりで、仲間入りして20年となりました。

仲間入りした頃は、朝の通勤時間帯である、7時半から8時半の間は青梅街道を東大和市から羽村市までモービル運用が始まりました。

この朝の通勤時間帯は、青梅街道や五日市街道を上り下りのモービル局が数多くQRVしていました、時には10局位がモービルラウンドQSOをしていましたので、順番が回ってくる前に会社に到着する事もしばしばありましたからQSO中のブレイクタイムは有効なルールでした、また、モービル移動範囲が遠くになった場合にも移動グループ毎にラウンドQSO局の再編成などにも、有効的にブレイクタイムは使われていました。

更に、東京都内を走る240グループモービルや、神奈川の湘南地区を走る240グループの信号も多摩地区を走るモービルにも、ブレイクタイムの合間に聞こえていました。

240SSB モービルグループには、1アマ、2アマの上級資格者が多く、それに影響されて、電話級で満足していた私も再開局して数年で2アマを取得しました。これは私にとっての240効果でした。

JA1WOBで再開局して、QSOするとJAのプリフックスの為かOM扱いされる事があり、高校時代に開局した当時と進歩がない自分が恥ずかしい気持ちにもなり、2アマの挑戦となりました。

試験の難易度は、電波法、無線工学、通信術の順番でした、欧文電信の符号は何となく分かっていましたが、電信には興味がなかったので送信は出来ても受信はなかなか大変でした。

電信の受信練習は、40歳も過ぎて、少しお腹の周りに貫禄が付いた事もあり、夜のウォーキングをしながら、カセットテープを毎日聞くことから始めました。最初は1分間25文字のテープを繰り返しかえし聞いていましたが、その内テープの内容を暗記してしまうので、符号が1～3出ると、頭の中では次の4～5位を思い浮かべてしまいます。

これではダメと思い45文字～55文字のカセットテープにすると今度は1～2符号は聞き取れますが、3,4,5と聞き取れなくなりました。

それでも、毎日聞いている内に、何とか45文字～55文字を聞き取れる様になりました。

その甲斐あって、2アマに合格はしましたが、実技の電信は一向に上達しません、コンテストやJCCサービスの、UR 59910 73 程度の交信にと留まっています、せめてラバースタンプでも通常のQSOでCQが出せる様になっています。

毎年240グループ恒例の「電波伝搬実験」はグループに仲間入りした翌年から参加しています。

始めは、ロケーションの良い所が分からず、240メンバーの情報でお手軽運用が出来る、六道山でした。

電波実験終了後、入間郡名栗村（当時）の蕨山に移動したJA7EBT局が「暫く移動運用をしている」との事で六道山の瑞穂町から名栗村へ向かいアイボール&移動運用となりました。

それから、240メンバーから得た移動ポイント情報を基に各地に移動運用に出ける様になりました。

240メンバーと栃木の前日光や群馬の伊香保や長野の上伊那などにも出かけパイルアップを浴びる喜びも味わいました。

長野の上伊那からQRVした時は、標高2000M近くまで車で登れるポイントでKDDIの中継所近くのFBなロケーションだったので、1度電波を出すとパイルアップ状態が続き、11時から13時位まで呼ばれ続けました、そこで、昼食を理由に強制的にQRTした事もありました。

また、モバイルからのお手軽移動運用だけでなく、担ぎ上げでの移動運用も始

め、奥多摩や奥武蔵の低山での運用も多くなり、交信局数の6.7割は移動運用と成りました。

JCC移動運用サービスと云うと、珍しい所に移動してサービスする事ですが、私の場合は、珍しい所に移動する訳でも無いので、自分がサービスして頂いている気持ちで多くの局と交信して頂いています、これも、240効果です。

ここ数年、私も含めて通勤でモバイル運用をする240メンバーが少なくなり50.240が静かになっています、週末に車移動の時は50.240SSBモバイル運用をしていますので、固定からでもお声がけ下さい。

また、土日で天気の良い日は移動運用をして、可能な限り50.240でQRVしていますので、無線機に電源を入れて240を聞いてください。

一般局とのQSOをしていても、ブレイクを掛けて下さい。

おわり